

# 根津鋼材・青梅

## スリッターを塗油・無塗油材兼用に

# フープ加工を強化

## オートシャーも老朽化更新

有力コイルセンターの根津鋼材（本社・東京都荒川区、社長・根津訓光氏）は、青梅事業所の大型スリッターラインを塗油、無塗油材兼用に仕様変更する。八潮事業所の大型スリッター撤去に伴い、青梅でも八潮で手掛けていたフープ加工を受け入れていくが、今の設備は塗油材のみの仕様。無塗油材も加工できるようにし、表面処理材など幅広い材質にきめ細かく対応する狙い。このほか老朽化したオートシャーリング機の更新も決めた。

青梅事業所（東京都一クを含む自動車向け主拠点。もともと豊田通青梅市今井）はトラック体の受託・賃加工専門商グループの関東コイ

ルセンター（KCC）だったが、今年4月から根津鋼材が一切の事業を引き継いでいる。根津鋼材は東日本エリアにCC拠点網（須賀川、長沼、八潮、浦安、相模原、青梅、蓼科）を配置し、電機O Aや建材、自動車向け

など幅広い需要分野を最適化・合理化・コスト負担軽減に向けた設備の集約や移設、統廃合も積極的に行っており、八潮の大型スリッター撤去もその一環。同社は拠点展開を進める一方、加工機能の



仕様変更する青梅事業所の大型スリッターライン

撤去後のフープ加工は浦安、相模原、青梅に振り分けるが、青梅の既存スリッターは塗油材仕様のため、無塗油材の高品質加工を担えるよう専用のベルトブライドル（キズ防止用テンション）装置を装

また、青梅ではオートシャーの入れ替えも決めた。来年夏から秋にかけて最新鋭機能を装備したオートシャーを設置する。保有台数

2台は変わらないが、自動化・省力（人）化がさらに進む。▼6面「流通加工」版に関連記事

